

『悪の猿』J・D・バーカー 著 富永和子 訳

ジェフリー・ディーヴァーやジャック・ケッチャムら大御所作家たちがこぞ絶賛！連続殺人犯の自殺で始まる、予測不能スリラー！

ジェフリー・ディーヴァーやジャック・ケッチャム、ジェームズ・パターソンといった超大御所たちが「才能ある作家」「ここ数年読んだ中でも最高の始まり、そして期待を裏切らない」「すばらしい独創性」と続々と賛辞を送るスリラー界の若き新星、J・D・バーカーがハーバーBOOKSに登場です！

主人公はシカゴ市警の刑事サム・ポーター。
彼が追っているのは“四猿”と呼ばれる
「見ざる、聞かざる、言わざる」になぞらえて
被害者の体の一部を家族に送りつけ

そのあと殺すという手口の
連続猟奇殺人鬼なのですが、まったく手がかりを

残さない知能犯で、この5年間いっさい
尻尾を捕まえることができないまま。

でもそんな時、ポーターのもとにある
交通事故の知らせが……

なんと“四猿”と思われる男が車に轢かれて
死んだと言うのです。

しかも防犯カメラによって自殺と判明。
いったいなぜ……？

死んだ四猿は謎めいた日記を持っていて――。

600pごえの読み応えあるボリュームながら、
先が読めない展開で**一気に読み必至！**

目を覆いたくなるような恐怖あり、謎ときあり、
ポーターと仲間の軽快なやり取りありと

大御所たちが賛辞を送るのも納得の一冊。

この夏のイチオシです！

